

令和5年度 芸術資源活用プロジェクト  
採択プロジェクト一覧

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
東京藝術大学と中国人留学生～李叔同から現代まで～展(仮)	牛島 大悟 (東京藝術大学 芸術情報センター 助教)
プロジェクトの概要	
<p>旧東京美術学校最初期の中国人留学生で、中国本国で弘一大師として現在も絶大な人気を誇る李叔同(李岸)の留學生活を本学の芸術資源である記録文書、大学史関連資料から読み解き、その調査結果を公開する展覧会を実施することを第一の目的としている。また特に1990年代以降の本学への中国人留学生の実態調査を行い、旧東京美術学校から続く本学への中国人留学生が日本と中国、両国の文化交流を促進してきたかを明らかにする。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
埋立地のオルタナティブ・フォークロア	菅野 歩美 (東京藝術大学美術研究科 油画博士3年)
プロジェクトの概要	
<p>本プロジェクトは「自分たちには伝承が無い」という新横浜の人々の語りから始まった。彼／彼女らの親世代は移民であり、自らの郷土に対する明確なイメージを確立できずにいる。そこで、新しいフォークロアを作ることにした。そのためのリサーチの過程や成果をまとめた冊子を制作し、街の店に置いてもらうことを目標としている。リサーチに際しては、大学付属図書館の書籍資料や大学美術館が所蔵している作品の閲覧を予定している。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
古典絵画を対象としたディテール・アーカイブとその活用	鈴木 七実 (東京藝術大学大学院美術研究科 文化財保存学専攻 教育研究助手)
プロジェクトの概要	
<p>東京藝術大学大学美術館の約25,000点に及ぶ収蔵作品は、本学ならではの教育インフラとなっている。その多くは美術館HP内の収蔵品データベースで画像が公開されているが、修理の状態など詳細を確認することはできない。本プロジェクトは収蔵品のうち「東洋画真蹟」「東洋画模本」を対象に、典型的な古典技法や表装形式、損傷箇所や修復箇所といったディテールをクローズアップで撮影し、画像を教育資料として活用することを目的とする。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
藝大校歌再生活動 第2シーズン	高田 清花 （東京藝術大学美術学部 先端芸術表現科学部3年(休学中)）
プロジェクトの概要	
<p>高田の課題制作をきっかけに始まった、藝大の学部学科を超えた同期約80名で藝大の前身・東京美術学校校歌の「再生」を試みる活動。第2シーズンでは、卒業生の方々などへのインタビューを更に拡充し、集大成となるホール企画や活動全体のアーカイブ化に挑む。</p> <p>時代を超えて藝大生間に繋がりを生み、藝大への誇りや芸術への志を先輩方から受け継ぐことができる媒体としてこの「校歌」を継承し、後輩へと残していきたい。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
かたちのないものを収蔵する—記録収蔵作品の事例研究	中江 花菜 （東京藝術大学大学美術館 学芸研究員）
プロジェクトの概要	
<p>本プロジェクトは「かたちやモノのない」作品の収蔵や今後の活用を検討するための基礎研究である。本学収蔵の近年の学生制作品には、ワークショップ、パフォーマンス、アーカイブなど多様な作品形態が含まれ、大学美術館はこうした「かたちのない」作品を「記録収蔵」してきた。「記録収蔵」とはどのような作品に適用され、その作品「記録」を残し、どう活用するのか、これからの作品収蔵を考える一助となる研究である。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
日本コントラバス教育の源泉～長汐壽治の遺したもの～	中村 文音 （東京藝術大学大学院音楽研究科 博士後期課程修了生、コントラバス奏者）
プロジェクトの概要	
<p>長汐壽治（ながしおひさはる、1900－1975）はコントラバスの正統な奏法を学ぶために日本人としてはじめて欧州留学をし、その後の日本におけるコントラバス演奏に多大な影響を与えた人物である。本プロジェクトは長汐の功績および教育について、大学史資料室に保管された資料にもとづく調査研究により明らかにし、散逸し断片的に伝えられるのみとなっている長汐壽治の功績を継承することを目的としたプロジェクトである。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
東京音楽学校における演奏会記録の保存・活用に向けたプラットフォームの作成	橋本 かおる、仲辻 真帆 （東京藝術大学 未来創造継承センター 大学史史料室 学術研究員） ※ 採択当時は音楽学部 音楽総合研究センター所属
プロジェクトの概要	
<p>東京音楽学校では1887年の開校以来、多くの演奏会が催されてきました。これらの演奏会記録は本学の歴史を伝える重要な芸術資源の一つです。本プロジェクトは当室所蔵の学内演奏会プログラムの保存・活用及び収集活動を促進する第一歩として、『東京芸術大学百年史 演奏会篇』第1・2巻をデジタル化し明治期から昭和前期までの卒業演奏会情報をデータベース化することで、演奏会記録へのアクセシビリティ向上を目指すものです。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
近代画絹の性状と編年に関する研究-藝大所蔵絹本作品のマイクロSCOPE調査を通して-	京都 絵美 （嵯峨美術大学 客員准教授）
プロジェクトの概要	
<p>本プロジェクトは近代画絹の糸形状等を年代ごとに分析し、繊維産業の発展に伴う製糸・製織技術の変化と関連づけて考察するものである。明治期以降、織りかけ技術や繭乾燥・煮繭装置の研究開発等で生糸の性状が変わったことは絹本絵画制作にも影響を及ぼしたと考えられ、実際に画家らによる随筆や解説書などからもその一端が窺い知れる。本プロジェクトは絵画技法だけでなく近代以降に流通した古画の贋作問題も視野に含めている。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
Le Rire 表紙展 ～渡辺恂三の集めた夢～	渡辺 愛 （東京藝術大学音楽学部 音楽環境創造科 非常勤講師）
プロジェクトの概要	
<p>東京藝術大学附属図書館の所蔵するカラー風刺雑誌「Le Rire (ル・リール)」を、旧蔵者で本学卒業生の洋画家・渡辺恂三の作品と共に展示する。Le Rireは1894年にパリで創刊し、Lautrec, Vallotton等の有名画家が当時の文化や政治等を描いて一世を風靡した出版物。渡辺の逝去を機に母校に一挙寄贈された世界有数のコレクションを公開し、作家個人のコレクションが創作に及ぼした影響を探る。</p>	

※ 五十音順